

平成3年12月4日

## 空き缶プレス回収機『くうかん鳥』増設

500ml缶対応機種を区内13か所に設置

明日5日から稼働開始

豊島区消費生活センター(北大塚1-15:河原勝広所長)では、今年6月26日に、23区に先駆けて、200~350ml缶対応の空き缶プレス回収機(愛称:くうかん鳥)を区施設4か所に設置し、1日平均1万545缶(4か所合計)、10月末までの回収総数が104万4千缶という当初の予想を大幅に上回る成果をあげてきた。

さらに、豊島区では、今秋をめどに200~500ml缶対応機種13機の導入を計画していたが、このほど回収機メーカーが同機種を開発し、設置に至った。既設置の4か所についても、500ml缶対応機に交換される。ちなみに、アルミ缶リサイクル協会の調査では、市場に出ているアルミ缶の約2割が500ml缶であるという。

利用開始は、5日から。設置場所は、今年6月に設置された消費生活センター、第5出張所(目白1-7)、第11出張所(池袋本町1-12)、心身障害者福祉センター(目白5-18)の4か所に加え、駒込福祉作業所(駒込4-7)、西巣鴨ことぶきの家(西巣鴨2-35)、総合体育場(東池袋4-41)、南池袋児童館(南池袋2-46)、池袋図書館(池袋3-29)、第6出張所(長崎2-27)、第7出張所(南長崎4-29)、第8出張所(長崎4-45)、第9出張所(要町1-49)の9か所に新たに設置される。

利用できるものは、飲料用のアルミ缶とスチール缶で、利用者は、回収機の投入口の取っ手を引いて、空き缶を入れるだけ。後は、回収機の中で、アルミ缶とスチール缶を自動分別し、圧縮した上で機械内部に回収される。また、アルミ・スチールとも空き缶1缶につき、1円分の図書券引換え補助券が自動的に発券され、専用の台紙に100枚貼り、消費生活センターまたは区内12か所の出張所窓口を持参すると、100円の図書券と交換できる。

利用日時は、日曜・祝日・年末年始・第2,4土曜日を除く毎日、午前9時から午後4時30分まで。ただし、土曜日は午前11時30分まで。

鉄くず価格の暴落を背景に、スチール缶のリサイクルが困難になりつつある状況の中での事業拡大について、消費生活センターの河原勝広所長は、「今後、回収経費が増えたとしても、資源保護・ゴミ減量のために、リサイクル・ルートの開発などを実施し、積極的に回収を続けていく必要があると考えています。確かに回収できた空き缶の約7割はスチール缶ですが、図書券という付加価値を楽しみに、街なかに捨てられている缶をきれいに洗って持って来て下さるお年寄りや子供たちもたくさんいます。この事業は、生活に密着した自治体として、国や民間企業に対し、法整備を含めたリサイクル・ルートの確立を求めるアピールでもあるのです」と話す。

問合せ 消費生活センター所長